

# 平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	水路等汚泥処分事業			会計	款	項	目	大	小
政 策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	河川課					
施 策	1-5	土地利用・生活環境に配慮した道路整備	主管課長	池田 輝昭					

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	準用河川や水路	意図	河川、水路等の浚渫により発生した汚泥等を適切に処理する。
事業内容	浚渫汚泥等を適切に処理するものである。			
事業開始から現在までの状況変化	放射能の影響で、汚泥処分費が高騰したが、現在は横ばい傾向である。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	処分量	244	133	250	m <sup>3</sup>
②							
③							
④							
⑤							
⑥							

  

指標で表すことができない定性的な成果				目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
事務事業のコスト	平成28年度	平成29年度	平成30年度	福島原子力発電所事故に起因した汚泥処分費高騰などの問題は、落ち着いている。 新川耕地の物流事業に伴い、新川承水路の浚渫を見合わせているため、事業が平成29年度から減少している。 また、物流事業により完成した、新川承水路については、水路の浚渫を適正に実施していく。
事務事業の総コスト(a=b+c)	6,161,770	3,392,220	4,329,948	
事業費(b)(円)	3,415,770	1,378,620	2,352,348	
うち一般財源	3,415,770	1,378,620	2,352,348	
職員給与費(c)(円)	2,746,000	2,013,600	1,977,600	
人役・職員(人)	0.40	0.30	0.30	
人役・再任用(人)				
人役・臨職(人)				
人役・嘱託(人)				
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）				
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）				

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島原子力発電所事故に起因した汚泥処分費の高騰に関し、賠償請求する。</li> </ul>	③取組における課題(Check)	<ul style="list-style-type: none"> <li>汚泥の放射線量に注意する。</li> </ul>
②H30に実施した取組(Do)	<ul style="list-style-type: none"> <li>汚泥を適正に処分した。</li> <li>東京電力(株)に賠償請求を行った。</li> </ul>	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	<ul style="list-style-type: none"> <li>汚泥処分先の確保について、調査する。</li> </ul>